

**Q** 「少子化」克服への  
処方箋は（総括編）

杉田 恭之 議員



**A** 安心して子育てができる環境  
整備を実施していく

**問** 結婚支援への本市の考えは。  
**答** 鶴ヶ島市社会福祉協議会の婚活イベントでは、成婚に結びつく成果も上がっている。出会いの場の提供や機運醸成の取組は、少子化対策の一手段として有効である。

**問** 子育て支援への本市の考えは。  
**答** 第5次鶴ヶ島市総合計画後期基本計画では、すべての子育て家庭への支援、仕事と子育ての両立

支援、きめ細やかな子育て支援サービスとの推進という3つの施策を体系化している。子ども・子育て支援事業計画では、それらに子育て支援と連携した母子保健の充実を加えた4つの目標を掲げており、これらを総合的に推進していくことが重要と考えている。子育ての情報発信、児童館の充実などに努めており、今年度から鶴ヶ島版ネ



ウボラもスタートした。子育ての不安や孤立感を和らげ、その楽しさや喜びの実感を目指していく。

**問** 家族支援への本市の考えは。  
**答** 希望する数の子どもを持つことの実現、子育ての負担感の軽減及び働き続けることのサポートが重要である。不妊検査及び不妊治療への助成、病児保育、保育の受け皿の整備等を行っている。

**問** 世帯支援への本市の考えは。  
**答** 多世代同居や近居を支援する事業等を研究・検討していきたい。

**Q** 図書館の充実について

小川 茂 議員



**A** 図書館基本構想に掲げる基本  
目標の実現に努める

**問** 中央図書館の来館者数は。  
**答** 平成27年度の18万8152人に対し、28年度は21万5471人で、2万7319人、14・5割の増加となった。

**問** いわゆる若葉駅前カウンターの業務内容について。  
**答** 年末年始を除き、9時から21時までスタッフを配置し、本の返却や予約本の受け渡しのほか、読書相談などにも対応している。

**問** ネットワーク化の現状は。  
**答** 28年4月から中央図書館と6か所の分室、さらに全ての小・中学校がネットワークによって結ばれた。小・中学校図書館の蔵書もデータベース化され、市内の図書

**問** 開館時間の延長と開館日数の増加のほか、若葉駅前カウンターへの常駐スタッフの配置など、利用者サービスの充実が図られた。  
**答** 指定管理者制度導入による変化について。

**問** 今後の課題は。  
**答** 施設・設備の老朽化、郷土資料整備の遅れなどの課題がある。鶴ヶ島市立図書館基本構想に基づき、課題解決を支援する機能と市民が連携し、協力し合う交流空間としての機能の充実に努める。



中央図書館